

## 会 議 要 録

会 議 名		平成 29 年度 第 3 回 小平市青少年問題協議会
日 時		平成 29 年 8 月 25 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分
場 所		小平市役所 6 階 大会議室
出席者 等	委 員	10 名（欠席者 7 名）
	事務局	子ども家庭部長、家庭支援担当課長、生活支援課長、指導課長補佐兼管理担当係長、地域学習支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		2 名
会議 内容	1 開 会 2 議 事 (1) 子ども・若者計画における現状分析と主な課題について (2) 子ども・若者計画の体系案について (3) 子ども・若者計画の基本理念と視点について（フリートーキング） 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 資料 1 現状分析と主な課題 資料 2 子ども・若者計画体系（案） 資料 3 計画の「理念」「目標」 こころの東京革命	

### ○ 会議内容等についての意見・質疑応答

#### 1 議事

##### (1) 子ども・若者計画における現状分析と主な課題について

委 員            資料 1 の 1 ページ（1） 2 段落目「昔の若者」とはいつのことを捉えて表現しているのか。2 点目として、3 段落目に「家庭の教育力の低下」とあるのは、どのようなことか。また、「生活体験・自然活動の機会の減少」とあるが、公園など遊び場がないために行政はどのように捉えたのかと感じたが、行政として公園を確保するなどの取組みを行ってきたのか。3 点目として、「思いやりや人権尊重の心の欠如」について、家庭が取り組む課題と思うが、学校教育でもこの問題に取り組むことが可能かと思う。スマートフォンの普及などによるコミュニケーション能力の低下もここに含まれているのか、それを伸ばしていく育成についても考えているのか。

事務局 現在は、海外渡航の移動手段も便利になり、海外に出て行く若者が多くなっていること、ボランティアも根付いてきていることを捉え、昔とは異なる若者の積極性と表現したものだが、昔という表現はあいまいかと思うので、記述を見直したい。

2点目については、国の子ども・若者白書などにも記述されている一般論を示したもので、あいさつ、礼儀など家庭の教育力の低下がみられるということである。自然体験活動の減少についても、我が国における一般論として記述しており、小平市の公園の状況を言っているものではない。一般論として空き地の減少や子ども達に時間的な余裕がない状況もあるかと考えている。

3点目の人権尊重については、スマートフォンの普及による対面コミュニケーションの不足も一面としてあるかもしれないが、いじめの深刻化が象徴的な問題として挙げられる。

委 員 昔の若者にも積極性、エネルギーはあったと認識してほしい。

委 員 人権に関する課題については学校でも重く受けとめており、年間を通じて取り組んでいる。今回の現状分析、課題についての資料をみて、小学校、中学校の施策、東京都の施策との関連も考慮されており、よくまとめられていると感じた。この計画が学校教育のすき間を補うものと認識した。

委 員 1ページ(2) 3行目、就労状態の不安定な若者の増加は、アンケート結果で示されていないが、根拠を示してほしい。2ページ(3)「直接届く支援」とは具体的にどのようなことか。

事務局 1点目について、前回の会議資料2の11ページに、国や東京都のデータを社会状況として示している。

2点目の直接届く支援については、学習支援やティーンズ相談室が現在の事業で該当するものである。次回、計画素案において具体的な施策として示していく。また、若者と直接接している皆さんから支援の際に困っていることやこんな支援があればということがあればご意見をうかがいたい。

会 長 本協議会は、事業を決める場ではないが、案があれば出していただき、事務局に検討してもらえればと思う。

委 員 児童養護施設では、毎年卒園生が10名前後いる。大学進学には助成金や奨学金があるが、卒業した時点で借金を抱え込んでしまう。進学後もアルバイトをするなど苦勞して学校生活を送っている。児童養護施設は、子どもたちにとって実家代わりのようなものなので、卒園しても身近な市内に住みたいと希望する者も多い。このような状況を知っていただき、何か支援があれば良いと思う。

資料1の3ページ、(5)については、小学校でコミュニティスクールの取り組みがなされており、地域・保護者・学校が協力していてとても良いと思う。学校支援ボランティアやコーディネーターなどが一生懸命活動している。地域の担い手の育成において大事な観点だと思う。

(2) 子ども・若者計画の体系案について

委 員 施策の方向は、シンプルで良いと思う。

委 員 分かりやすくて良いと思う。

(3) 子ども・若者計画の基本理念と視点について（フリートーキング）

会 長 皆さんが青少年に関わる中で、の要望やご意見をいただければと思う。キャッチフレーズについては、分かりやすい市民に寄り添った表現にしたいということだと思う。

委 員 青少年問題は、重い課題を抱えている子どもや家庭への支援という面が大きいと思うが、普通の子を含め、やる気のある子どもの活動を推進するムードを市がつくるのも必要ではないかと思う。基本目標5のところで、子ども・若者が活躍できる場を増やすようなものを取り入れられると良いのではないか。

委 員 小平はNPO活動が盛んである。NPOが各大学に呼びかけを行い、学生と一緒に活動をしている。年に1度集まってその活動の発表がされている。強い推進力を持った学生も多いが、活動がなかなか表に出ないため、発信の場があれば良いと思った。

委 員 この協議会にも学生の委員がいらっしゃる。このような若い人が増え、活躍する環境ができれば良いと思う。

会 長 活躍する若者の頑張っている姿は素敵で、それが広まってくると良い。

委 員 昨年度実施した調査の結果報告書がよくまとまっていたと思う。今回の資料では、課題について一般論で「コミュニケーション能力、自己肯定感の低さ」が指摘されている。アンケート結果では、「自分を大切な存在だと思いますか」という問いに小学生では「そう思う」という回答が多く、自己肯定感につながるものであり、過去の調査よりも増えている。日本社会の一般論と比べると小平の子は自分を大切に思っているという明るい結果が出ており、皆さんの努力のたまものと感じた。一方で、調査結果では、15歳くらいになると自分を大切な存在だと「あまり思わない」と回答する人が増えている。子どもたちが自分を大切だと思えるようになると良い。

民間のバスや地下鉄、お店での子ども料金割引サービスなどが行われている地域がある。社会が子どもを大切に思っているというメッセージを子どもが感じられると良いと思う。

- 委員 5月と9月は自殺する生徒が多いということ、いじめ問題を考える機会として道徳の時間が増えていることなどを聞き、基本目標3に強い関心を持っている。相談できず孤立している児童・生徒もいると思う。学校のスクールカウンセラーに相談するとそのことが周りにわかり、相談しづらいこともあるのではないかと。地域の民生委員・児童委員や青少年委員は、子どもたちの問題を把握するため、戸別訪問などをするのか。直接届く支援を地域でできると良いと思う。
- 委員 福祉は申請主義なので、困っているのではないかと支援者側で思っても声かけできない。民生委員・児童委員としては、相談者に対しても、周囲にそのことが分からないよう、路上で挨拶をしないなど気をつけている。何かできることはないかと考えるが、できないことが多く葛藤がある。本当に支援が必要な人に届いていない可能性もあると感じている。
- 事務局 青少年委員の職務は、教育委員会が行う青少年教育事業への協力や地域の青少年の余暇指導等であり、家庭を訪問して困っている子どもたちに対応することなどは職務となっていない。
- 委員 いじめの問題は埋もれている可能性もある。都立高校では、全校にスクールカウンセラーが配置されており、すべての生徒と面談を行っている。いじめに関するアンケート調査を年3回、スクリーニング、担任面接も随時行うなど学校できめ細かく対応している。それでも漏れてしまうことがあるので、地域のセーフティネットが必要だと思う。
- 委員 地域の子ども達を連れてキャンプに行くと、会話が苦手な子や友達を作れない子もいる。異年齢の子どもが将棋など一緒に遊ぶのを見て、同じ活動ができる場も大事だと感じた。そういう場で相談する人ができ、いじめを改善できることもあるのではないかと感じている。
- 委員 学童保育では、異年齢の様々な家庭環境の子ども達が集まって過ごしている。指導員も温かく見守っており、学校と違う別の世界があることで良い面があると思う。
- 会長 現在は、同年代同士で遊ぶことが多くなっているが、異年齢の子ども達が参加する活動が地域で盛んなことは良いことだと思う。学校教育は、同年齢の集団で過ごす場であるが、社会に出ると年齢が違う人と関わるのが当然になるので、異年齢の活動が進められたら良いと思う。
- 委員 ボーイスカウト活動では、異年齢の子ども達が一緒に活動する。
- 青少対活動で、10～15年前と違うのは、親の協力度合いで、共働き世帯が増加している。体験学習を増やし、子ども達が自分でやる、それを大人がサポートするということを推進している。青少対活動の担い手、次の世代をどう育てるかが、現実の問題としてある。
- 保護司は、万引きなどの犯罪予防や相談活動を行う。保護者の相談にもものし、人を育てる過程で保護者ができないこともやり、解決に向けて動いて

いく。問題のある子どもの保護者は、学校の保護者会などに行かないことが多く、先生とのコミュニケーションがとれていない。また、先生がひとつの学校に在籍する期間が短く、卒業した後相談したいと思っても「ホーム」にならない。先生との人間関係をどうつくっていくのかという課題もある。

## 2 情報交換・意見交換

委員 高校の教育現場では、市の施策があまり知られていない。市と高校との間でもっと連携、情報共有ができればと思う。

委員 児童養護施設では、小規模化、家庭的養護の方向性で進んでおり、施設の中で空いた場所を、地域の子育て支援に活用できないか考えている。市と協議し地域の要望等を反映したいと思う。施設では、他の市町村の子どもを受け入れることがあるが、行政では近隣市とのやりとりはあるのか。

事務局 児童養護施設に委託しているショートステイ事業は、国分寺市、東村山市と3市共同の形をとっており、定期的に連絡会を行い、情報交換している。また、先ほどの施設を活用した子育て支援に関しては、小金井市とも話をさせていたきたいと思っている。

委員 保育施設運営に当たって、親育てが大切だと考えており、保護者と面接するなどコミュニケーションをとったり、地域の子育て家庭を対象にした相談も行ったりしている。隣近所の付き合いが減り、自治会の加入率が低下していることも課題のひとつかと思う。

委員 問題を抱えている家庭と関わることが多い。親からの相談にはのるが、子どもに期待しており、子どもを育てたいと考えている。子どもに自分で生き抜く力をつける場が欲しいと感じる。守られるだけではなく、生き抜く力、危機を回避する力を身に付けられる場があれば良いと思う。

委員 異年齢の交流を通して子ども達が学ぶ場を提供するのは、地域で担い、学校の負担を軽くすると良いと思う。クラブ活動や地域の活動に参加する子どもを増やせたら大きな力になると思う。活動を支援し、そこに通う子ども達を継続して支援することで、地域の力もついてくると思う。

委員 自殺防止のポスターに「ひとりでも話を聞いてあげる人がいれば救える」というような文言があった。地域の目を青少年に向ける工夫が必要かと思う。いじめは許されるものではないことや相談先などを周知する手段があると良いと思う。

委員 学童クラブの指導員は、あまり口を出さず「見守る」ことをしている。遊びの輪に入れず一人でいた子どもが、自分の力で輪に入っていくまで見守っていた。大人が言葉で解決するのではなく、見守ることの大切さを感じた。

委員 学校支援コーディネーターをしており、卒業した子どもや保護者とも地域で会い話をすると、高校や大学を卒業した後、無業になる子どもがいる。大学を卒業した人を対象とした職業体験の場がたくさんあると良いと思う。市内の企業の仕事を知る場もあると良いという声があった。

委員 資料１の（２）から（４）に関わることだが、フリーターとして不安定な就労となったり、病を患って就労できなくなったり、また離婚で家庭崩壊し子どもが犠牲になっているという事例があった。病気で就労できない人への支援がもっとないかと考えている。近隣に親族など頼れる人がいる場合でも、住まいなどについて市の支援ができないかと思う。地域によっては子ども会が消滅し子どもの居場所がないことも多く、居場所がほしいと感じる。自分の子育ての経験を通して、子育ての終着点は子どもを自立させることだと思った。子どもを自立させることを考えていない家庭も多く、手をかけすぎて子どもをだめにすることも多いと感じる。青少対の活動として、異年齢の交流ができる場や事業、伝統文化の体験や挨拶キャンペーンなどを行っており、子ども達に元気に登校してほしいと願っている。

会長 多くのキーワードをいただいた。計画素案に活かしていただきたいと思う。